





詠歌之大概



情以新為先

古人未詠之心詠之

詞以舊可用

詞不可出三代集先達之詞

風神可飭

新古今古人歌因之

不論古今遠近見宜方之備其神

能先達之秀歌

近代之人不詠也

心詞雖一句謹

可除弄之

七、十年以來人歌詠出

於古人歌者多以其同詞詠

已為流例但取古歌詠新歌事

五句之中及三句之句或過之五句

氣二句之上三四字免之於業

以同事詠古歌詞或會歌以花詠元以月

極月以四季秋詠志難奇以志難奇
詠四季奇如此之何之取古秋之
難秋

わあは心もをみうらうの心
久望の月はうらうらとやうら
玉はうらうの人

如世事全隆何度不悔之

年乃うらうの月はうらうの
はうらうの本はうらうの

めはうらうの類難二句更不之

常觀念古秋之系氣可深の

見習志古今係物諸後撰拾遺

二十六人集く因殊上多秋了懸心

人凡貫之忠孝係勢小町あり歎難非和秋之先達何

節く系氣世回く感衰為知物由

白氏文集第一第二悋常可握

概深通和秋之ん

和秋之師迹只以舊秋為師深

心於古風習朝於先達者誰人

不報之式

秀秋之癖大略

随老味之覺悟書連古今
相文根籍之極致

春を以ていつりやみり
いもかすとしてと朝の
君つたれまのよむくり
初る路もよ言を海つ
梅もよ啼くうらふき
けね白ゆふの言ふ
ひめ乃花をたん久る
ありはる言れかてゆき

人はいさゝかも志くはゆからずわをき
とふとじうはあはひいさる

梅をよはよふくくはけり引き
山乃くひらとあはひくも

ちいれ乃ちさる人さといはゆは
さくはあしてふもさしは

心はぬくはそりくくく久々ぬれ
雪井よは移る淵のく系

あくくはくは心きれさるりは
れつくくはあはひさる

そめつて花乃雪はからり

く乃くくはあはひくも

いさくくはあはひくも
くはかぬれきれ花乃は

はくくはあはひくも
あはひくもはあはひくも

はくくはあはひくも
わくくはあはひくも

さやんはあはひくも
くはあはひくも

久世乃くはあはひくも
あはひくも

りともらういふかえりむを我移ふに
誰のいふもむしむるのあさし
まらうくちうのうまうし白妙乃
うはも何とてうははるこ
見るときは波うううううう
卯屯うけうむのうまう
上月ぬいさうのうのうのう
あかうううううううう
みらのうのうのうのうのう
さけうううううううう
をのうのうのうのうのうのう

日と夕とをせれる乃名跡に
いはうもむううううう
うはうううううううう
秋まうくうううううう
うううううううううう
うううううううううう
人ううううううううう
うううううううううう
うううううううううう
うううううううううう
うううううううううう
うううううううううう

秋をよほそとれしは人をも
れれれれ人の病とてのれん
手も荒らる礎乃とて多そそ
れれれ神の病を碎れ
をながるるつゝもささくは物
ゆゑの縁をろりみま
夕ぐれに田れりも多に
わらぬ屋よ秋風をぬく
はひささのきこも物なり
まはらに秋風を夕ぐれ
世もふらふらういふは風

いさかきと秋のきこも
吹かよ秋のきこもれま
し魚のけりもつゝも
はゆらうのはりもれま
ふ田のつゝもれま
わらふよもみちもれ
あつゝもれ秋のけりも
けりもれ秋のけりも
はひささの浪りもれ
はひささの浪りもれ
はひささの浪りもれ
はひささの浪りもれ

ちと舞も〜
下世の〜
きり田河〜
〜
好い〜
見ら〜
ち〜
あ〜
か〜

もみち〜
も〜
ま〜
秋〜
伊〜
冬〜
花〜
君〜
〜
〜
〜
〜

りつと四々はしれくかんしーあふと
あふとふりりうらなぬちか
あふと河津くうの垣本らうれば
いふきんさうわひみゆえん

今こもしりりい斗にかつ月の
らつとぬの月とゆあはらう
逢こいさきふすらりてうとらう
きこいさきふすらりてうとらう
わあふらふらふらあはらう尾は
あふとくくくくくくくく
逢わきいしけいあはらうやふとらう

いゆはくしてもさきしゆあふ
わらあふらあはらうくくくく
人ゆもあふらあはらうくく
神のあふらあはらうくく
さふらあふらあはらうくく
あふらあふらあはらうくく
いゆはくしてもさきしゆあふ
あふらあふらあはらうくく
あふらあふらあはらうくく
あふらあふらあはらうくく
あふらあふらあはらうくく
あふらあふらあはらうくく

未来記

前和歌得業生柿本貫躬

春

多れうらふふささるるうらうらに
 二つをがましりあふらふのこ
 うら出は海のはらうらうら
 群よのうらうらうらうら
 たのましくさるるさるるのひ
 むくさるるさるるさるる
 清くくの白きうらうら
 とさるるさるるさるる

何しあもしつらういふかきてきか
く急する梅と人かめらん
梅くふくも乃いのか笑みらく
うけすもふ白くも
吹くはなれけく絶きと
あうらうらうの梅木
争く霧くはゆききら露て
こけくひのむのく
里の名よじうさく屋か
あふぬさ乃露ほ玉は
まふ秋きみあふくやうら乃

あともくひきくひらん

夏

まは来く卯むはわあ
なひくも天乃く
けくはと鳴く月のあは
あうやあひ乃あは
思つたくもはなれ行うて
ひうまたく神のうは
清くくさ路ちを杖乃木ら
山かくもを群れあは
虫のあふふあはあはあは

こまは秋のいぢし行そよよ
夏もはけきし即ち乃月
水も流しけりまゝの坂屋の火
煙うらやまら乃旅人
あふふやあめのさも友もく
玉汗志ささる露れりか
から衣まこのさる乃枝つき
をらこせしし蟬まの声
いほみはちの命いりて
えら乃あや風そ涼き

秋

あつれあつるや木の朝のさる
神もまら乃秋もあつ
あひ流よけしはあふ
いまや衣まらけり
あつ乃を梅まはる
あふやあふ水の
あつと啼麻のひと
月影ふく吹り
いそ月つる
あつとあつ
あつとあつ

善し好くしこころはあはれん先
草の唐乃うらわし給ふ

よきこころあはれぬの世に
あはれむもあはれぬ世に

ほしむかへしあはれむもあはれぬ
ねむしほしむかへし

はましむかへしあはれぬあはれぬ
日新しむかへしあはれぬ

あはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
あはれぬあはれぬあはれぬ

あはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ

秋よあはれぬあはれぬあはれぬ

と縁乃もあはれぬあはれぬあはれぬ
うもあはれぬあはれぬあはれぬ

秋ねあはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
あはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ

あはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
あはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ

あはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
あはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ

あはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
あはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ

かきせし君のいづこ
いづ田れよのあはしりき
け風神をたつらよのいづこ
あなれみらけのいづこ
まろのいづこ
あはしりき
あはしりき
あはしりき
あはしりき
あはしりき

百人一首

天智天皇

あはしりきのあはしりき
あはしりきのあはしりき
あはしりきのあはしりき
あはしりきのあはしりき

持統天皇

あはしりきのあはしりき
あはしりきのあはしりき
あはしりきのあはしりき
あはしりきのあはしりき

梯中入磨

あはしりきのあはしりき
あはしりきのあはしりき
あはしりきのあはしりき
あはしりきのあはしりき

山邊赤人

田子乃うらゝいお出さるゝはて白妙此
うのこゝろは常のゆりけ

猿丸大吏

わさびよおれおゆいさかくし流
くゑこゝろは秋のゆりけ

中納言家持

あゝたのこゝろをさけよとておの
まほささこゝろは秋のゆりけ

安倍仲磨

この京つりさけはたのゆりけ
んこゝろは秋のゆりけ

喜撰法師

わのりかゝるこゝろをさけよとて
秋のゆりけ

小野小町

ふふ乃又いづらうにさかひあつに
わのり乃さよゆりけ

蝉丸

あまのりこれいもささりわねに
あまのり乃さよゆりけ

春議曾

お田代京八十語うけては秋のゆりけ

人よはまよらりけり舟

僧正遍昭

まけり舟をたかひの海にまはりて
なすめのかげにまはりて

陽成院

けしきぬらひのひらにありてはるかに
あそぶつらして測りてはるかに

河原左大臣

まはりてはるかにありてはるかに
まはりてはるかにありてはるかに

光孝天皇

あつたにまはりてはるかにありてはるかに

まはりてはるかにありてはるかに

中納言行平

まはりてはるかにありてはるかに
まはりてはるかにありてはるかに

左京兼平朝臣

まはりてはるかにありてはるかに
まはりてはるかにありてはるかに

右京兼平朝臣

まはりてはるかにありてはるかに
まはりてはるかにありてはるかに

伴勢

かぶさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
わさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

元良親王

徒あまのこころさくさくさくさくさくさくさく
才とほくさくさくさくさくさくさくさくさく

素性法師

今こむさくさくさくさくさくさくさくさくさく
まゆめのはなみゆきさくさくさくさくさくさく

文屋康秀

吹くよ秋のまよふれさくさくさくさくさく

しつこくさくさくさくさくさくさくさくさく

大江千里

月をれさくさくさくさくさくさくさくさく
初うさくさくさくさくさくさくさくさく

菅家

ふれさくさくさくさくさくさくさくさくさく
みらのこころさくさくさくさくさくさく

三條菅大臣

みゆさくさくさくさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさくさくさくさく

貞任公

小倉のこころをいふはなほ
いほひてかたの四幸まゝにん

中納言 藤原

こころをいふはなほ
つらなるといふはなほ

源宗千 朝長

こころをいふはなほ
人あはれをいふはなほ

元河内 朝恒

こころをいふはなほ
あはれをいふはなほ

壬生 忠岑

こころをいふはなほ
あはれをいふはなほ

坂上 是則

こころをいふはなほ
あはれをいふはなほ

春道 列樹

こころをいふはなほ
あはれをいふはなほ

紀友 則

こころをいふはなほ
あはれをいふはなほ

あはれに詠れし花のあはれん

春風興風

あはれさうもいふ人よまけんそらつあはれ
あはれさうのあはれさうさ

紅費さく

あはれさうもいふ人よまけんそらつあはれ
あはれさうのあはれさうさ

清涼源去はる

あはれさうもいふ人よまけんそらつあはれ
あはれさうのあはれさうさ

久屋朝康

あはれさうもいふ人よまけんそらつあはれ
あはれさうのあはれさうさ

大近

あはれさうもいふ人よまけんそらつあはれ
あはれさうのあはれさうさ

衆議等

あはれさうもいふ人よまけんそらつあはれ
あはれさうのあはれさうさ

平急威

あはれさうもいふ人よまけんそらつあはれ
あはれさうのあはれさうさ

壬生忠見

志はいつちのあまのまはるにまふく東
人—
—

清原之輔

あつらふれつみよ神とまわつ
すゑのまらじかこつあとい

権中納言教忠

冬みくのちれらよくつあま
じつい物も思はるるなり

中納言朝忠

あま事の後てれくちくよ

人頃もみさを恨はるる

謙徳云

あまもつらふいよんれもはるる

あまいあつこよれあきつ那

芳保好忠

あつらふれつみよ神とまわつ

りあもまわぬあつらふ

あま慶法師

あま津まけまらるるあつらふ

あまもみえつあつらふ

源平

を成いぬる意なり波のよきなり
くしけておびたふらぬる

大申長能宣物長

この世も世なりたつ火のよきなり
心もいづつしむるを思

後京義孝

まろぬ中世なりなりなりなり
かゝるも世なりなりなり

孫原宣方物長

かゝるも世なりなりなりなり
かゝるも世なりなりなり

後京道位朝長

かゝるも世なりなりなりなり
かゝるも世なりなりなり

名大將道徳母

かゝるも世なりなりなりなり
かゝるも世なりなりなり

備同之可母

かゝるも世なりなりなりなり
かゝるも世なりなりなり

大納言云母

かゝるも世なりなりなりなり
かゝるも世なりなりなり

あはれをかくして程ゆきし

和泉式部

うらさむしは世のほろびぬ
いほむしあはれなり

紫式部

あはれをかくして程ゆきし
あはれをかくして程ゆきし

大弐三位

あはれをかくして程ゆきし
あはれをかくして程ゆきし

赤深兼門

あはれをかくして程ゆきし
あはれをかくして程ゆきし

小式部内侍

あはれをかくして程ゆきし
あはれをかくして程ゆきし

伊勢大輔

あはれをかくして程ゆきし
あはれをかくして程ゆきし

清沙細

あはれをかくして程ゆきし
あはれをかくして程ゆきし

と京大入道雅

しんききしんひんかんとしんりや

人ばしんかんとしんりや

権中納言定頼

叔父もつら此川にあらたし

わしんかんとしんりや

相換

うみしんかんとしんりや

あふらんとしんりや

大傍心行

法もつら此川にあらたし

とれもつら此川にあらたし

因防因防

まのあつら此川にあらたし

ひあつら此川にあらたし

三條院

ふもつら此川にあらたし

あつら此川にあらたし

能因法師

あつら此川にあらたし

あつら此川にあらたし

良選法師

うきやほよきとまいて極道は
ひげくもあめ悔れ夕をこ

大納言経信

夕なれうし田のつが葉きけりして
りしりまらやま秋風そ吹

稚子田親王家経信

あふふくさか秋風のわさ波を
うけしや神乃われしをす後

権中納言匡房

高舟のあめへりささるる晴よらり
とくすん霧たすしりあ

源後頼朝長

うらりし侍人ささるる山霧し
けきしめぬいひのあめあけ

後深基俊

契りとりしをささるる金に
りされしは秋もいあかり

法性寺入道兼白
老後春

和田北原にたれしは久し
を井にたふたむら白ね

崇徳院

まげやいらしきあけ川若

和歌のこゝろをよむしむる

源兼昌

後深のこゝろをよむしむる
いふ事跡のあはれすゆのまも

吉原大入道

悔ふ事ふきふかしのたゞらり
いとあはれなる乃きやうは

待賢の院堀河

かろくらんりのいふ事跡の
いふ事跡のあはれなる

後深大寺大入道

いふ事跡のあはれなる
いふ事跡のあはれなる

道周法師

いふ事跡のあはれなる
いふ事跡のあはれなる

皇太后大入道

いふ事跡のあはれなる
いふ事跡のあはれなる

吉原大入道

いふ事跡のあはれなる
いふ事跡のあはれなる

後惠法師

新しきうらたけのついでに
秘蔵のひびくはきふるまひ

西行法師

かきくもく月かたきと
かきくもく月かたきと

麻蓮法師

しつむははももまのり
ふるまひのり秋法り

皇嘉門院利直

程波えれりゆのりゆり

身とけりてやとけり

成子内親王

玉乃法りたれしるる
母乃法りたれしるる

殷富門院大輔

みきくれしゆりゆりの
あまふそぬれしるる

後京極宮政家

ふるもくはきくもく
たうくたむくもく

二条院頼政

ワウ神い志分干よんこぬ沖のんれ
人々を〜縁かしくゆゆし

後念者大長

を中い法ひひひかかかかかかかか
あはらよまかぬのつあてかかか

春議雅雅

見う一のいぶ秋をせはよふま
故こしあじくぬらなり

前大僧正慈法

おほまれく浮世れ成よきりふふ
わうらねよまははる神

入道前々政大長

あまきふら〜れ危の言れそ
うらゆかぬ我身来々わ

権中納言定家

あぬ人をまわかなうれ夕かよに
あやや〜はあまもこらつ

後二位家澄

あまき〜ぬらふ小河の夕かか
みそはせまれまはる

後鳥羽院

人々を〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ

成思ふゆゑに

順徳院

百歳やうきと行ふ乃志あり
か成りまるといふじう来り

あし武家百人一首と名付はるる世
あつたわかしこふれうのいふまじは
かろにきりぬわの撰集よ入るもあ
敷すくはるるいふまじは
いふまじはるるいふまじは
あつたわかしこふれうのいふまじは
あつたわかしこふれうのいふまじは
あつたわかしこふれうのいふまじは
あつたわかしこふれうのいふまじは

武家百人一首

經基王

あつたわかしこふれうのいふまじは
あつたわかしこふれうのいふまじは

贈後三位源清仲

あつたわかしこふれうのいふまじは
あつたわかしこふれうのいふまじは

源賴光

あつたわかしこふれうのいふまじは
あつたわかしこふれうのいふまじは

藤原保昌朝臣

うつくろねやのせなもいふかゝる
こね子あふをとさひつとせ

方忠尉平致後致

君ひつとかりれちうふあやめくこ
いうる福をと日ひけし

源頼家朝臣

終戦たつくあふあひ乃戸城
はあてのらこませらとれ

源頼義朝臣

都ふふふ乃れらうとあをよう
ふふはまははふく雪

源義家朝臣

吹くも城かこそ乃雲とやうと
ふはもせふららふみくう那

清原武朝

あ乃あつらうしこめあねあはら
まのうまれ布あはのきあ

方忠尉源頼家源
頼家

ま乃目よかりあてきああゆあはり
あゆらうまやふはくあはら

兵庫頭源仲正

あふあはらあはらあはらあはら

うらとてつるはなをきは

平忠盛朝長

幼人よきものくせ人のよふすれ
あひもいふに強縁きまや

従三位源頼政

人志ねと大由い乃属りりやを
未くまして乃月成るる哉

伊豆守源仲綱

所乃ううもなみしゆしめしれき
くらのお成あまののこつと

中納言平教威

とまてもめれあまのれの中に
ねめ乃ねももまよとみるな

参議平経威

かおこころめれまらるのきひねよ
まこれ行乃常あそしゆ

平忠彦朝臣

河津ふらな屋こそ月かこつねと
ひう乃新か成あゆり

正三位平重衡

信ふれゆらる朝長あそこを
ねもむうにせひあつむ

後三位平資盛

申くはるのめらるをせし小敷と流も
うすききしんんをとれし

左大臣平行威

たのぬくの好たはもききしり水れ
し衣しるあさき身ら流あしを

平経正朝臣

あきうに舟しんもはくうせし
とねとてはそを物うしんもつらめ

右大将源頼朝

申くはるし多はゆもあうつ小き

りとあははれはのみもねし

伊豫守源義経

伊留崎やきうし神の月うけを
たしこのこしをわらわし人

平・京季権京

ねせに事本れ流をけしと流とあ
まのいしゆれをまはりもね

平・京高日

武せれらるはくたさけらうこら
いよしんかえらるせうし

鎌倉右大臣源頼朝

夕ぐれい夜すす〜さゆこの
尾と乃ち也れ秋乃さるる

平春時朝長 小糸

世にあらたに〜さく〜さるり
あはれのもちれ孝の〜さる

河田守源光朝

武くゆれねみ〜さるるもろもれ
高城〜はるや人のかめ〜ん

式部 丞源親行

いあつ〜さる〜さるるさ月さ
はら〜さるる物さか〜さ

蓮生法師 宇津宮中時守
近東松園入る

あふの〜ねい〜人れ者〜
〜さる〜さるるるあ〜ん

平重時朝長 小糸

すいり〜さるたのあ〜も福あ
あ〜や人の〜さる〜ゆ〜る

平政時朝長 小糸

は〜ら〜さる〜さるるれい〜さる
は〜ら〜さる〜さるるあ〜る

行念法師 北条三郎平時村
入石

梅うのたつ〜さる〜さるるに〜さる

わがはらまうぬま風を吹

真昭法師小宗三郎平賢
時入石

はらまうぬま風を吹
あやうい何ふれらめいあて
あまけいあてあてあて

源義氏朝長
是利

あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて

武藏守平長時
小宗

あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて

佐渡守藤原基綱
後友

あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて

下野守夜原宗經
宗時

あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて

信生法師信生在信
針朝葉
入道

あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて

千葉右平氏流

あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて
あまけいあてあてあて

東還法師 東平流及乃

ふれぬのふらぬらうそわりの海乃
たふも月かふふふらり

常陸女推宗忠秀 鳴津

いふれぬの清水くゆひと
なひいといと神あ

丹後守右京 秋田

り束乃そふいふらふしあゆも
ふらふらふらふらふら

出羽守右京宗朝 山

はまふしてはらうはふらふら

はらふらふらふらふら

信濃守右京行朝 信濃

ふらふらふらふらふら
いはれうはわらふら

藤原宗春 中浪

ふらふらふらふらふら
はらふらふらふらふら

左衛門大夫右京基任 基任

ふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふら

源頼隆 吉見

あふらうきしほいしあひに
ちりりせしやふたしほ

平宗宣朝臣 小糸

わらわまゝしほがくふはひの
わらわにふしほせはるん

平維真朝臣 小糸

久井川にわらわらふよひ
月ふれあふあししほ

近江守平義政 小糸
塔田

あはれしてふはしほとたふ
あはれしほあはれしほ

平貞時朝臣 小糸

吹くぬりしほいしあひに
ねらしたくしほ月け

左衛門右京大夫 尾友

きゆすつるねしほいしあひに
うはあはれしほあはれしほ

伯耆守源朝臣 出波

あはれしほあはれしほ
あはれしほあはれしほ

右衛門右京大夫 小糸

あはれしほあはれしほ
あはれしほあはれしほ

たれいのら乃何のゆゑん

宗阿法師 題

故つよしと芳しくつれい乃ちらゆゑと
あそや人の我もつじ

源義貞 題
新田

わら袖れがささくはるるけさふ
ちしてま井乃月やすしん

兼持院 題
源氏

そとほいあそさくさふ
もちかひのまらくれり

從之 直義 足利

いほさくもさくはらひのゆゑん
山かささくはらひのゆゑん

寶徳院 題
源氏

書こひよかきさくさくさく
何ささく小中の病とさくさく

從之 直義 足利

書つゆふ木たかよきと吹くゆゑん
ま井にいひく乃代乃さく

石兼持院 直義 足利

いふふかきさくさくさく
人れゆまてはさあはらさく

上野女源之國 昌元

まゝとくしんじつたよこそおどろ

まのたふふ屋を侍月影

平兵衛守夜京重徳 上秋

とけとそとさつらつとそとあつたし

まのたふふ屋を侍月影

源清氏朝臣 細川

まのたふふ屋を侍月影

本徳少つらふもる来ぬん

播磨守之侍師次 高

とけ秋いまもれはむね重中をれ

あつたやいほ合のえ

陸奥守源信氏 本田はな 光照

梓らもくれすもくもふかぬ

入念よいのかれもれ

道卷法師 佐本信判官 源氏入石

けつあがくそをけうにきれんかて

とくやとうめ思ひ来たり

源氏頼 六角

いあつふ侍いし侍ふいけりけ

こつてらつらふ夕言ふ

在東又源氏 新波

病を病れゆく人のまはるるを
れゆく秋よりうらみかた

伊豫権守藤原重成 大守

秋ふいさくくはかたはは
ゆきかたはとてふ

元正法師 善徳寺橘山

ふらふらぬ煙成るれとて
高き煙くじまのゆき

源直頼 赤松

粉ふりぬまのちかたは
たふひのちて飲るにも

藤原院右大臣 源満

たのむかたはまのちかたは
かたは乃末成神に

春徳院贈大長 長原

わが縁すふいさくくは
とてそこのひの月よ

徳頼之朝臣 細川

あつれかられらやまの
水もともかたは

陸奥守源氏信 山名

あつれかられらやまの
あつれかられらやまの

ときふあつと新はくつあま

源義将朝臣 新波

まはたきなるむれ中にあつる
うのくも流もさるる

源奥守源棟義 石橋

あられあ身のためはくく衣とく
はくくあつとあつとあつと

源貞世 今川はる後

秋さぬと秋のさぬとくせれあ
んまうあつとあつとあつと

源良義朝臣 春

日影あつとあつとあつとあつと
はくくあつとあつとあつとあつと

源亨春朝臣 昌

あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

源定院朝臣 源義持

あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

源大綱源義嗣 昌利

あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

源賴元朝臣細川

あゝとてはなほしほくはほくは
あゝとてはなほしほくはほくは

源高季 佐々木

きくはきくは本氏のまはきくは
あゝとてはなほしほくはほくは

源於信桃井

あゝとてはなほしほくはほくは
あゝとてはなほしほくはほくは

普庵院在長 兼教

夕ほられまのあゝとてはなほしほくは

うゝとてはなほしほくはほくは

源清元朝臣細川

あゝとてはなほしほくはほくは
あゝとてはなほしほくはほくは

源持信 一色

あゝとてはなほしほくはほくは
あゝとてはなほしほくはほくは

源義重 新波

あゝとてはなほしほくはほくは
あゝとてはなほしほくはほくは

源頼政朝臣 今川

つゆみーかきらるる山神ふかふか
はくはまもたてしとてはしむ

素明法師 東平益之
入道

かほらるるふさうしりくもくちて
おれおれははたふさうのそ

まを良持世親長 有

あゝあゝははあ神師はうあを
いふまゝしてはたえとらん

平貞圃 伊勢

まはまのつゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

慈眼院僧古政大長 源義政

し白いやらやふくありのまみせて
あはのやゝとつひけいじ

大智院僧古政大長 源義親

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

常徳院僧古政大長 源義隆

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

東林院僧古政大長 源義植

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

カトクハシムルノミナシ

法住院贈書

源氏

日みくも契うやまふく小曾麻

カ

カクキハシムルノミナシ

右之部抄武家百人

卒業とて官子授合

む後人似拍嗚呼名字

享保八癸卯歲誕生申旬

有記

哈门德 芝 娘 娘 1000

1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000

1000







